

ライオン学校伝書鳩通信

～お楽しみ会を行いました～



お楽しみ会、参加者は誰？

今回の支援は、以前から企画していた「お楽しみ会」でした。前回の支援の際、子どもたちにお楽しみ会に参加するかどうか尋ねたところ、半数くらいの子が「行けるかわからない」と答えました。そのため、少人数のお楽しみ会になるかなとスタッフは予想していましたが、お楽しみ会の日が近づくにつれて「参加できる！」という子が増え、結局、声をかけた子はほとんど参加することになりました。お楽しみ会の前日に子どもたちの家をまわると、どの子もしっかり集合時間を覚えていて、とても楽しみにしている様子でした。

また、今回は子どもの保護者にも参加を呼びかけました。仕事の予定を調整してくれた方や、ギリギリまで調整を試みたけれど来られなかった方もいました。いつものライオン学校では、ほとんど学生スタッフしかいませんが、今回は久しぶりに3人の先生たちが参加することになっていたため、保護者の方々は久しぶりに先生たちと話をしたかったようです。中には、最近あまり会っていなかった保護者もいましたが、今回のイベントを実行するために、家庭訪問したり、子どもたちの家に何度も電話をかけたりしたので、そのような方たちとの距離も少し縮まったように感じます。ある方は「調理器具はある？持っていくのか？」と前日に心配して電話をくれ、ライオン学校の活動を見守ってくれているように感じました。

あいにくの雨だけど・・・

お楽しみ会では、バーベキューやアスレチックで遊べる公園に行くことを予定していましたが、当日は朝からあいにくの雨でした。しかしバーベキュースペースには屋根がついているということだったので、スタッフはバーベキューだけでもやろうと判断し、公園へ出発しました。公園に着いたら、まずはバーベキューの準備です。「火起こし係」「野菜切り係」「焼き芋係」に分かれ、係の子どもたちは順調に準備を進めていきました。自分の担当が決まると張り切ってやる子どもたちばかりです。一方で、自ら「味見係」を買って出たライオン学校の中でも年下の2人の男の子は、雨が降っているにも関わらず、遊具のあるゾーンへ向かっていきました。そして係の仕事を終えた他の子も、一人また一人と雨の中へ飛び出していきます。ライオン学校の子どもの遊びに、天気は関係なかったようです・・・！

そして、いよいよバーベキューのお肉や野菜が焼きあがると、子どもたちは長い列を作って取りに来ました。お肉を焼いても焼いても、すぐなくなって、「まだお肉焼けないの〜？」とせかされる程です。支援を重ねるごとに子どもたちの食欲がどんどん増えていることは感じていましたが、改めて「よく食べるようになったな」と思い、そんなところにも子どもたちの成長を感じました。



試される学生スタッフと子どもたち

今回のお楽しみ会は主要スタッフが学生だけになってから初めてのイベントでした。色々なことを想定して綿密に計画を立てることや、子どもたちを一つの集団としてまとめる力がいつもの活動以上に必要となり、学生スタッフにとっては支援スタッフとしての力量を試されることになったお楽しみ会でした。振り返ってみると上手くできなかったところがいくつも思い浮かんでしまいます。例えば今回は、バーベキューの後に石ノ森萬画館を見学することになっていました。このプランは、前回の活動に参加した子どもたちが提案してくれたものです。しかし、その話し合いに参加していなかった子の中には、施設を見学するよりも外で遊んでいたい子が何人かいて、その子たちのわがママが始まってしまいました。その時、学生スタッフは慌てておろおろとしてしまいましたが、助っ人で来ていた先生スタッフがビシッと叱りました。子どもたちを集団の一員として行動させるには、大人としてどっしりと構えることが必要なのだと学生スタッフたちは学びました。

また、お楽しみ会で試されることになったのは、学生スタッフだけではありませんでした。細かなところまで気を配って子どもたちに指示を出すことができない学生スタッフによる運営の下で、さらに支援スタッフの人数が今までのイベントに比べてはるかに少ないという状況で、行程通りに会を進められたのは、子どもたち自身のこれまでの成長や、ライオン学校の中で少しずつ積み上げてきた関係があったからだと思います。途中でトラブルもありましたが、無事に行程通り会を進められたことに、これまでの支援の成果を感じられました。

ライオン学校、これからの可能性

来年から学生スタッフは就職や進学などで環境が変わり、今よりも子どもたちに会いに行くことが難しくなってしまいます。定期的な支援ができなくなってしまうことで、これまで少しずつ作り上げてきたライオン学校の関係性を維持できなくなってしまうのではないかと心配していましたが、最近の子どもたちの成長した様子を見てみると、その心配も薄れてきました。それは特に中学生メンバーが最近ともしっかりしてきたからです。これまで年下の子と一緒に自分の欲求を押し通そうとしていた子は、最近では小学生の子がわがままになってしまうときに、それをなだめようとするできるようになりました。また、別の子は今回のお楽しみ会の計画を立てる際に、石巻に土地勘がないスタッフに様々なことを教えてくれ、どのような計画にしたらより楽しい会になるか一生懸命考えてくれました。他にも、今まで年下の子をかわいがり過ぎてしまい、上手く関係が作れ



なかった子は、最近では年下の子が来ても落ち着いて対応することができるようになりました。このように、成長の目覚ましい中学生メンバーと上手く連携を取りながら、ライオン学校でのイベントやスタッフと子どもたちの関係、子どもたち同士の関係を続けていきたいです。

お楽しみ会の感想

お楽しみ会に参加し、久しぶりにライオン学校の子どもの再会したスタッフから、子どもたちの様子について感想を書いてもらったので、紹介します。

~~~~~

今回の訪問は、昨年4月以来ですから、1年半ぶりに万石浦のライオン学校に顔を出したことになります。本当に久しぶりにあった子どもたちは、身体的にも精神的にも成長していて、確実に大人に向かっていくことを感じさせてくれました。特に、バーベキューの食材を切るような場面では、事前準備が細かくなされているわけでもないのに、分担してテキパキと仕事をこなしていく様子に感心しました。また、小雨のあいにくの天気だったのですが、お構いなく遊びに興じる様子からは、こうした場を楽しみにしていることも感じられました。長い時間をかけて丁寧に作られた育ちの場としてのライオン

平成 26 年 11 月 12 日発行

ン学校は、震災後の時間の経過によっても風化することなく、万石浦の地に根づいていることを実感した1日となりました。（清水睦美）

以前、定期的な支援活動が終わるとき、困ったときはハガキを書こうと、渡した子どもがいました。その子もう中2になっていて、私よりも身長が高く、部活動の様子の写真を見せて説明してくれました。「手紙書こうと思ったんですが、何とか大丈夫だったので」「いざとなったら〇〇も守ってくれるから」その〇〇君は今日は解散した後、拠点センターに残って数学の勉強を始めました。一人ひとりの成長とつながりを感じました。（松永雅文）

---

**【活動記録】支援メンバー(10月31日・11月1日)**

甘利悠貴、今井美里、大林沙紀、藤原弘輝、清水睦美、高柳恭介、松永雅文

---

**！寄付のお願い！**継続的な支援のために、お願い致します。寄付を頂きました際には、お手数ですが右下記連絡先までご一報お願いします。

**ゆうちょ銀行**

店名:〇五八店(ゼロゴハチ店) 店番:058

番号:普通 3385189

ライオン学校(ライオンガッコウ)

※ゆうちょ銀行からの振込の場合

記号:10510 番号:33851891

グループ名:ライオン学校

TEL: 080-6554-8762(代表:今井)

Email: [info.lionschool@gmail.com](mailto:info.lionschool@gmail.com)